

主な施策	事務事業番号	主要事務事業名	事業概要	担当	KPI（成果指標①）						KPI（成果指標②）						予算額（千円）	決算額（千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の方向性		
					事業目標	目標年度	基準値	基準年度	目標値	実績値	達成率	事業目標	目標年度	基準値	基準年度	目標値						実績値	達成率
II 「彩りあるまち」の実現																							
外国語教育の推進	1	北九州市型外国語教育の推進	北九州市型外国語教育の推進をはじめ、外国語指導助手（ALT）の配置等による指導体制の充実や子どもの学習意欲を高める取組等を実施することにより、北九州市と世界の架け橋となる人材を育成する。	学校教育課	中学校卒業段階で、CEFR A1レベル（英検3級程度）以上の生徒の割合	R10	48.3%	R5	60.0%	48.4%	80.7%								326,225	321,283	概ね順調	令和6年度は、管理職と研究主任を対象とした小学校、中学校2日間の研修、市内の外国語教育リーディングスクールでの公開授業研修会を実施し、また、令和6年度新規リーディングスクール指定校の取組を全市に共有するなど、北九州市型外国語教育の一層の普及に取り組んだ。 英語教育実施状況調査における中学校卒業段階で英検3級程度以上の生徒の割合は48.4%で、令和5年度に比べ増加しており、また、各学校において外国人ALTを活用した学習改善、授業改善が継続的に行われ、「やり取り・即興性」に特化した言語活動の工夫が行われている。 今後は、年間を通じた授業の支援訪問、若年層をターゲットにしたセミナーの実施などの取組をより充実させ、北九州市型外国語教育の更なる推進を図る。	継続
文理の枠を超えた学び・最先端の理工系教育の推進	2	Kitakyuスーパーク+（プラス）による理工系人材育成推進	北九州市ならではの「特色ある数学、理科教育の推進」に取り組み、理数への興味や向上心を喚起させることで、将来の理工系人材の育成を推進する。	次世代教育推進課	将来の夢や目標を持っていることものの割合	R10	小：81.1% 中：66.8%	R5	小：81.9% 中：67.5%	小：82.0% 中：65.7%	小：100.1% 中：97.3%								4,064	4,064	概ね順調	数学に関する「学校の中で味わえない体験の演出」を通して、中学生が数学への興味を深めるとともに、数学に強い次世代人材を育成するため、令和7年1月19日（日）に第2回スー1★GPを開催した。成果指標である「将来の夢や目標を持っていることものの割合」について、中学生の実績は目標を下回ったものの、第2回スー1★GPの満足度に係るアンケートでは、肯定的回答が96%であり、市内の理工系教育の推進を図るきっかけとなった。	継続
コミュニケーション力や生きる力を身につける教育の推進	3	経済界との連携による学校支援事業	市内企業等と連携して、企業等の人材やノウハウなどを学校教育に生かす。	次世代教育推進課	将来の夢や目標を持っていることものの割合	R10	小：81.1% 中：66.8%	R5	小：81.9% 中：67.5%	小：82.0% 中：65.7%	小：100.1% 中：97.3%								5,500	5,500	概ね順調	「北九州の企業人による小学校応援団」では、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等、親学推進プロジェクトを実施した。成果指標である「将来の夢や目標を持っていることものの割合」について、小学生の実績は目標を上回っており、地元企業を知ることで、本市の新たな魅力に気付くなど、キャリア教育の側面からも効果が認められた。	継続
学校給食の質の向上	4	学校給食の魅力向上（おいしい給食大作戦）	学校給食の魅力向上に向けて、新献立の提供やSNSでの情報発信に取組むとともに、安全安心で安定的な学校給食を提供する。	学校保健課	給食を「おいしい」と答えた子どもの割合	R7	72.6%	R5	R5年度比増	85.2%	117.4%								230,000	229,798	順調	令和6年度は「学校給食応援団」からの専門的な助言や提案に基づく新メニューの提供に加え、児童との給食交流等を実施することができた。給食を「おいしい」と答えた子どもの割合は85.2%と目標値を超える高い評価が得られた。引き続き学校給食を「生きた教材」として活用し、栄養教諭等と連携した食に関する指導の充実を図るとともに、おいしい給食大作戦において、「学校給食応援団」に協力いただきながら、安全安心でおいしい給食の提供と魅力向上に取り組む。	継続
ICTを活用した教育環境の整備	5	情報教育の推進	教育におけるICT環境の更なる充実及び学校の教育活動全体を通じた情報教育を推進する。	教育情報推進課	教員が授業の中で週3回以上GIGA端末を活用する割合の増加	R10	小学生：74.8% 中学生：67.2%	R5	全国平均値以上（小：93.2% 中：90.8%）	小：81.9% 中：86.1%	小：87.9% 中：94.8%								541,947	541,560	概ね順調	ICTを活用した授業スキルの向上を目的とした研修の実施は、着実に教員の「授業観の転換」に繋がる指導力を向上させ、児童生徒が1人1台端末を活用した学習機会の向上にも繋がっている。	継続
教職員の負担軽減による教育環境の充実	6	システムを活用した教職員の負担軽減	校務支援システム等を活用した事務処理の効率化や見直し・削減を行う。	教育情報推進課	こどもと向き合う時間（指導時間を含む）が確保できていると感じていると答えた教職員の割合	R10	65.3%	R5	68.0%	65.7%	96.6%								154,640	148,460	概ね順調	システムの稼働確保のための日常的な保守作業や、ネットワーク機器の定期保守作業などを行った。不可抗力による停止がわずかにあったが、十分な稼働が得られており、成果指標達成の下支えとなっている。	継続

主な施策	事務事業番号	主要事務事業名	事業概要	担当課	KPI（成果指標①）									KPI（成果指標②）									予算額（千円）	決算額（千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の方向性
					事業目標	目標年度	基準値	基準年度	目標値		実績値		達成率	事業目標	目標年度	基準値	基準年度	目標値		実績値		達成率					
									目標値	実績値	目標値	実績値						目標値	実績値								
	7	教職員の負担軽減に向けた校務DXの取組	ダッシュボードを活用し、働きやすい環境を作ったうえで、事務時間を削減し、こどもと向き合う時間を増やしたり、こどもたちの学びの質の向上や学習支援の充実を図ったりする。	企画調整課	こどもと向き合う時間（指導時間を含む）が確保できていると感じていると答えた教職員の割合	R10	65.3%	R5	68.0%	65.7%	96.6%										6,300	2,809	概ね順調	学校に「可視化された教育データ（教育ダッシュボード）」を提供し、学校運営での利活用について実証を行った。実証では、教職員にとって有益なデータ（エビデンス）の可視化を図り、経験や勘といった属人知だけに頼らない、データ利活用が教育の質の向上に資するかを検証した。 事後アンケートでは、教員から「生徒への声かけの目安になった」「授業改善に役立てることができた」など高い評価が得られ、「こどもと向き合う時間が確保できていると感じていると答えた教職員の割合」も65.7%と目標値に近い結果となったため、全校展開できるものは引き続き教育ダッシュボードの一部機能を運用するとともに、校務支援システムとの連携など、システム改修等が必要なものについては、今後検討していく。	継続		
	8	教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の配置事業	学校現場における業務改善の一環として、教員の負担を軽減し、こどもと向き合う時間を確保するため、教員業務支援員の配置を行う。	教職員課	こどもと向き合う時間（指導時間を含む）が確保できていると感じていると答えた教職員の割合	R10	65.3%	R5	68.0%	65.7%	96.6%										538,698	530,872	概ね順調	教員業務支援員を全小中学校に配置（小学校126校、中学校62校）することを目標とし、積極的な配置を推進している。また、「こどもと向き合う時間が確保できていると感じていると答えた教職員の割合」も65.7%と目標値に近い結果となっており、引き続き、全小中学校へ配置できるよう取り組んでいく。	継続		
特色ある教育環境の整備	9	北九州市立高等学校の魅力向上推進事業	北九州市立高等学校の教育内容の更なる充実を図るため、企業・大学等との連携・協働体制の強化、学習環境の整備等を行う。	学校教育課	「学習を通じて、自分がしたいことが増えている」と回答する生徒の割合	R10	77.8%	R5	80.0%	73.6%	92.0%										17,549	14,739	概ね順調	令和6年度から文部科学省より高等学校DX加速推進事業補助金（DXハイスクール）の指定を受け、ハイスペックPCや3Dプリンター等の高性能のICT環境の整備を行った。併せて職員研修を行い、探究的な学びをより充実させるためのICT環境の効果的な活用について検討し、令和7年度の本格的な活用に向けた準備を行った。 また、「総合的な探究の時間」や、学校設定科目「イチリツ・プロジェクト」における、共育型インターンシップ（インタビューシップ）や、大学と連携したデータサイエンス教育の実施など、生徒の学習を充実させることができた。 その結果、「学習を通じて、自分がしたいことが増えている」と感じる生徒の割合は73.6%と、目標値の80.0%に近い結果となっている。 今後も引き続き、ハイスペックPC等の増台など、高性能なICT環境の整備に取り組むとともに、大学や企業との連携を更に強化し、北九州市立高等学校の教育内容の更なる充実を図っていく。	継続		
	10	こどもまんなか教育プラン推進事業	「北九州市こどもまんなか教育プラン」の周知・浸透及び教職員のウェルビーイングの向上のために、ワークショップや研修を実施する。	企画調整課	将来の夢や目標を持っているこどもの割合	R10	小：81.1% 中：66.8%	R5	小：81.9% 中：67.5%	小：82.0% 中：65.7%	小：100.1% 中：97.3%										2,159	2,074	概ね順調	対話型の教職員研修として「先生カフェトーク」を全6回実施し、約100名が参加した。参加者から好意的な感想が聞かれるなど、「質の高い教育環境」の実現につながる研修となったが、令和6年度は定員を設け、任意参加としていたため、少人数での実施となった。令和7年度はさらなるプラン浸透・実践のために、任意参加から該当年次教職員の必須研修へと見直し、受講者の拡大を図る。	継続		
「こどもまんなか」の教育施策の推進	11	心の教育推進事業	伝統文化や異年齢・地域交流などの体験を生かして、児童生徒が自己の生き方についての考えを深める道徳教育を推進するとともに、先人の業績や地域の歴史に関する学習を深め、郷土を愛する心など豊かな心を育成する。	学校教育課	「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	—	小6：80.3% 中3：78.1%	R5	全国平均以上 （小6：84.1% 中3：83.3%）	小6：81.9% 中3：83.2%	小6：97.4% 中3：99.9%	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うこどもの割合	R10	小6：75.3% 中3：62.3%	R5	小6：80.0% 中3：70.0%	小6：83.6% 中3：73.7%	小6：104.5% 中3：105.3%		4,010	3,707	順調	伝統文化体験学習や総合的な学習の時間等を通して、地域交流を概ね実施することができた。また、北九州市道徳教育推進事業において、指定校を決定し、道徳教育や「考え、議論する道徳」を目指した道徳科の授業研究を推進するとともに、その研究成果を全市に発信し、普及を図った。 児童生徒の「自分にはよいところがある」、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と思う割合はともに高い数値となっており、心の教育推進につながったものと考えられる。 今後も引き続き、北九州道徳郷土資料を活用した授業の実施や、「考え、議論する道徳」の実践の推進などの取組を通して、児童生徒の豊かな心の育成を図っていく。	継続			

主な施策	事務事業番号	主要事務事業名	事業概要	担当課	KPI（成果指標①）						KPI（成果指標②）						予算額（千円）	決算額（千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の方向性		
					事業目標	目標年度	基準値	基準年度	目標値	実績値	達成率	事業目標	目標年度	基準値	基準年度	目標値						実績値	達成率
本市の特色を活かした教育活動の推進	12	環境教育推進事業	「SDGs未来都市」として、SDGs環境アクティブ・ラーニングを、小学校4年生を対象とし、環境ミュージアムやエコタウン等関連施設での体験的な学習および環境教育に関する研究を推進することにより、環境教育の充実を目指す。	次世代教育推進課	授業が自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると思うこと割合	R10	小：81.7% 中：73.6%	R5	小：82.4% 中：74.9%	小：83.1% 中：79.9%	小：100.8% 中：106.7%							12,992	9,143	順調	小学校4年生の総合的な学習の時間の中で、北九州市の自然に直接触れたり、環境ミュージアム、エコタウン等の環境教育関連施設を活用したりする「SDGs環境アクティブ・ラーニング」を実施し、105校の小学校が参加した。成果指標である「授業が自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると思うこと割合」については、小中学生でいずれも実績が目標を上回った。引き続き、北九州市の自然や環境の保全、3R活動等に自ら課題を見出し、解決に取り組む市民環境力を身につけさせ、持続可能な社会の担い手を育成し、シビックプライドの醸成を図る。	継続	
Ⅲ「安らぐまち」の実現																							
学びの機会の確保	13	学びの多様化学校（不登校特例校）設置検討事業	学びの多様化学校開設に向けて、開設時期、設置場所、対象者、カリキュラム等について、検討を行う。	指導企画課	学びの多様化学校（不登校特例校）設置方針の決定	R7	—	—	100.0%	100.0%	100.0%							1,000	673	順調	学びの多様化学校については、他都市の状況調査や局内での検討を重ね、令和9年4月開校を目指す方針を表明した（令和7年3月21日予算特別委員会にて）。今後、安全かつ適正に開校準備を進めることができるように、対象とする児童生徒の範囲や教育課程、教職員等の配置、施設整備など、より具体的に検討していく。	継続	
	14	ひまわり中学校（夜間中学）の開校	学齢期を超えた15歳より上の小学校や中学校を卒業したことがない人や、不登校などで勉強できないまま中学校を卒業した人、外国の人などが、義務教育相当の教育を受けるため、夕方から授業をする夜間中学「ひまわり中学校」を開校する。	企画調整課 学事課 学校保健課 指導企画課	ひまわり中学校（夜間中学）の開校	R6	—	—	ひまわり中学校（夜間中学）の開校	ひまわり中学校（夜間中学）の開校	100.0%							98,680	66,448	順調	北九州市初の公立夜間中学校「北九州市立ひまわり中学校」を令和6年4月に開校し、令和6年度は1年生：10名、2年生：1名、3年生：2名が入学した。 国籍にかかわらず、義務教育を修了しないまま学齢期を経過した人や不登校など様々な事情により十分な教育を受けられなかった人々に対して、「学ぶことが楽しい」「学び続けたい」と思える学校、「仲間といろんな経験」ができる学校を目指す。	継続	
不登校・いじめ対策の強化	15	不登校・いじめ対策の強化	「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」等に基づき、不登校の未然防止、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどによる相談体制の充実を進める。 「いじめ防止対策推進法」に基づいた対応の徹底を図るとともに、いじめの未然防止、いじめの積極的な認知と早期の組織的対応、いじめ重大事態への対応、関係機関等との連携などの対策を講じる。	生徒指導課	学校に行くのは楽しいと思うこと割合	R10	小学生：83.8% 中学生：78.9%	R5	小学生：85.0% 中学生：80.0%	小学生：84.1% 中学生：80.6%	小学生：98.9% 中学生：100.8%							298,192	276,293	概ね順調	不登校児童生徒の居場所づくりとして、ステップアップルームの設置、一人一台タブレット端末を利用したオンライン授業などの取組を進めている。 「長期欠席対策検討会議」や「不登校対策リーダー養成研修会」を開催し、各学校における不登校対策の好事例等を集約して全校に周知するとともに、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家が課題解決に向け、きめ細やかに対応を行って、各学校で未然防止の取組を進められるよう組織的に取り組んでいる。 いじめ対策については、研修会や校内研修等を適宜実施し、いじめの定義や「いじめ防止基本方針」に関する職員の理解を深め、いじめの早期発見・適切な初期対応を行うよう取り組んだ。その結果、目標値に対する達成率も小学生98.9%、中学生100.8%と高い値となっている。 以上の取組の結果、学校に行くのは楽しいと思うこと割合が増加していると推測されることから、「概ね順調」と判断。	継続	
学校と地域の連携による学校運営	16	学校と地域の連携による学校運営	コミュニティ・スクールを核として、地域との連携・協働を図り、「地域とともにある学校づくり」を推進する。 地域学校協働本部・スクールヘルパー事業をはじめ、様々な市民ボランティア等と連携し、安全・安心な学校づくりや教育活動に係る支援など、各学校の実情に応じて、地域全体で学校教育を支援する取組を進める。	次世代教育推進課 学校教育課	「教育的効果が得られた」と回答した地域学校協働活動実施校の割合	—	93.5%	R5	R5年度比増	95.0%	101.6%							27,178	21,325	順調	「地域学校協働本部」を各中学校区に設置し、学校と地域のボランティアとの連絡調整を行う「地域学校協働活動推進員」や、教育活動の支援を行う「スクールヘルパー」を中心に、学校支援活動や学びによるまちづくり、地域活動などの様々な活動を推進した。アンケートにおいて、「教育的効果が得られた」と回答した地域学校協働活動実施校の割合は令和5年度の結果を上回った。	継続	